

# 故事成語 三〇問

組 番 氏名 ( )

- ① ( ) ……弟子がその先生よりもすぐれること。
- ② ( ) ……人生の栄華のはかないこと。
- ③ ( ) ……古い事柄のもつ意味をよく学び、そこから新しい知識を得て現代に生かしていくこと。
- ④ ( ) ……最後の仕上げをすること。
- ⑤ ( ) ……欠点がなく、非常にすぐれていること。
- ⑥ ( ) ……将来の成功を心に決めて、苦難に耐えること。
- ⑦ ( ) ……取り越し苦労、余計な心配のこと。
- ⑧ ( ) ……二者が利益を得ようとして争っているときに、第三者がその利益を横取りしてしまうこと。
- ⑨ ( ) ……苦学をしてむくわれること。
- ⑩ ( ) ……仲の悪いもの同士が同じ場所にいあわせたり、協力したりすること。
- ⑪ ( ) ……本質的に差はないこと。
- ⑫ ( ) ……霧に巻かれたように、物事に迷い思案にくれること。
- ⑬ ( ) ……味方がなく、周囲すべてが敵であること。
- ⑭ ( ) ……古い風習にこだわって進歩のないこと。
- ⑮ ( ) ……人生の幸福や不幸は予測できないこと。
- ⑯ ( ) ……詩や文章の詩句を練り直すこと。
- ⑰ ( ) ……互いに励まし合って、学問や人格を練り磨くこと。
- ⑱ ( ) ……大人物は後に大成すること。
- ⑲ ( ) ……他人の言葉や行いは、心がけ次第で、どんなことでも自分のためになるということ。
- ⑳ ( ) ……あっても益のないもの。無用の長物。

⑳ ( ……目先にとらわれ、結果が同じことに気づかぬこと。ずるい手段で人をだますこと。

㉑ ( ……立身出世のための関門。

㉒ ( ……強いものの威光を借りていばること。

㉓ ( ……必死の覚悟でことにあたること。

㉔ ( ……多くの中で一番優れた人やもののこと。

㉕ ( ……前後のつじつまの合わないこと。

㉖ ( ……一度してしまったことは、再び元どおりにはならぬこと。

㉗ ( ……まるでそばに人がいないかのように、勝手気ままにふるまうこと。

㉘ ( ……看板に偽りがあること。表面だけが立派で、中身がともなわぬこと。

㉙ ( ……はじめは非常に盛んで、終わりは振るわないこと。

# 故事成語 三〇問【解答】

組 番 氏名 ( )

- ① ( 青は藍より出でて藍より青し ) …弟子がその先生よりもすぐれること。
- ② ( 一炊の夢 ) …人生の栄華のはかないこと。
- ③ ( 温故知新 ) …古い事柄のもつ意味をよく学び、そこから新しい知識を得て現代に生かしていくこと。
- ④ ( 画竜点睛 ) …最後の仕上げをすること。
- ⑤ ( 完璧 ) …欠点がなく、非常にすぐれていること。
- ⑥ ( 臥薪嘗胆 ) …将来の成功を心に決めて、苦難に耐えること。
- ⑦ ( 杞憂 ) …取り越し苦労、余計な心配のこと。
- ⑧ ( 漁夫の利 ) …二者が利益を得ようとして争っているときに、第三者がその利益を横取りしてしまうこと。
- ⑨ ( 蛍雪の功 ) …苦学をしてむくわれること。
- ⑩ ( 呉越同舟 ) …仲の悪いもの同士が同じ場所にいあわせたり、協力したりすること。
- ⑪ ( 五十歩百歩 ) …本質的に差はないこと。
- ⑫ ( 五里霧中 ) …霧に巻かれたように、物事に迷い思案にくれること。
- ⑬ ( 四面楚歌 ) …味方がなく、周囲すべてが敵であること。
- ⑭ ( 守株 ) …古い風習にこだわって進歩のないこと。
- ⑮ ( 塞翁が馬 ) …人生の幸福や不幸は予測できないこと。
- ⑯ ( 推敲 ) …詩や文章の詩句を練り直すこと。
- ⑰ ( 切磋琢磨 ) …互いに励まし合って、学問や人格を練り磨くこと。
- ⑱ ( 大器晩成 ) …大人物は後に大成すること。
- ⑲ ( 他山の石 ) …他人の言葉や行いは、心がけ次第で、どんなことでも自分のためになるということ。
- ⑳ ( 蛇足 ) …あっても益のないもの。無用の長物。

⑳ (朝三暮四) ……目先にとらわれ、結果が同じことに気づかぬこと。ずるい手段で人をだますこと。

㉑ (登竜門) ……立身出世のための関門。

㉒ (虎の威を借る狐) ……強いものの威光を借りていばること。

㉓ (背水の陣) ……必死の覚悟でことにあたること。

㉔ (白眉) ……多くの中で一番優れた人やもののこと。

㉕ (矛盾) ……前後のつじつまの合わないこと。

㉖ (覆水盆に返らず) ……一度してしまったことは、再び元どおりにはならぬこと。

㉗ (傍若無人) ……まるでそばに人がいないかのように、勝手気ままにふるまうこと。

㉘ (羊頭狗肉) ……看板に偽りがあること。表面だけが立派で、中身がともなわぬこと。

㉙ (竜頭蛇尾) ……はじめは非常に盛んで、終わりは振るわないこと。